

おばちゃんへ

ラジオネーム：アロハペンギン

事故の前には毎日のように電話をして

「もしもし、おはよう」と元気な声が聞こえていたのに、

今でも亡くなったのがおばちゃんだと

認めたくない自分がいます。

おじちゃんが亡くなって、たった4年後に、

まさかおばちゃんまで亡くなってしまっなんて。

もっともっと長生きして欲しかった。

旅行や温泉巡り、おいしいものの食べ歩き、

いっぱいしたかったね。

おばちゃん、子どもをたくさん残してくれてありがとう。

私はひとりっ子だけど、幼い頃から近所に住んでいて、

私も姉のようにみんなの面倒を見たよね。

おかげで、この年齢になっても兄弟のような従弟たちと、

いつもおばちゃんのことを話しているよ。

「天国でおじちゃんと会えたかな。仲良くしているかな。」

なんて話しているうちに、涙が頬を伝います。

泣いていることを悟られないように

電話を切ることもよくあります。

おばちゃん、みんな元気んでいるよ。

私も若い頃には心配をかけたけど、安心してね。

ずっとこの街に住んで、毎回みんなを連れて

お墓参りに行くから。

孫たちも大きくなって、

上は中学生から、下は3歳までいますが、

今年、もう1人増えることになるよ。

ますます賑やかになるね。

私も甥っ子や姪っ子がたくさんいて幸せです。

どうか、みんなの幸せを見守っていてくださいね。

リクエスト曲

へ ひつりじゃないの

／

天地真理

く